

令和8年度(2026年度)
渋谷区教育委員会
学校運営に係る重点的な取組

令和8年度 7つの力を育むための重点的な取組

基礎

探究

自律

協働

共感

創造

挑戦

重点取組

01

子ども主体の「未来の学校」づくりの推進

全ての学校で、教育大綱に掲げる、「つくろう。ちがいを活かし合える、未来の学校。」を実現するため、子どもたちが主体的に自校の運営に携わったり、学びを自らつくり出したりする力の育成を目指します。具体的なアクションのため、子どもたちが本音を自分の言葉で語り合う対話の場を設けます。そして、子どもたち、先生たち、地域が、一緒になって未来の学校をつくりあげます。これにより、子どもたちが将来、社会参画し、自らの手で未来を切り拓く力を養います。

重点取組

02

一人ひとりの“ちがい”が活きる新たな学び・探究の推進

個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの視点から、客観的な根拠を踏まえた学びの変革を進め、自律した学習者として自ら考え判断して学び続ける力、多様な仲間と協働して新たな価値を創造する力、自分が思い描く未来の実現のために挑戦する力を養います。また、架け橋期の連続性を確保し、幼児期からこれらの力の基礎を培います。その実現にむけて、子どもたちが、自ら問いを立てて楽しく学べる支援者としての教員を育成します。

重点取組

03

誰でも安心・安全に挑戦できる教育環境の整備

人はみんな違うという多様性を理解し、互いを大切に互いのがんばりを応援し合える教育を目指します。教育活動全体を通して、子どもたちが自分の行動に責任をもち、共感、思いやりの心を大切にしながら他者と十分に関われるような機会を重視します。また、どの子も安心して学んだり、自分の力を出したりできるように、安心・安全な教育環境を子どもたちと一緒につくります。

重点取組

04

テクノロジー活用によるDXの加速化と教員の働き方改革の推進

テクノロジーを活用したDXの推進により、教職員の業務負担を軽減し、教育の質の向上につなげます。また、教職員がチームとして組織的に、新しい取組に挑戦したり、学校で生じる様々な課題に対応したりすることを通して、教員としてのやりがい、達成感、成長を感じられる環境や制度を整えます。

重点取組

05

地域と子どもの未来を共創する学校づくりの推進

コミュニティ・スクールとしてまちぐるみの協力を得ながら、子どもの育ちを支え、地域と共創し、探究する学校づくりを目指します。また、教育課程外でも子どもたちが健やかに成長できるよう、小学校で朝に安心して楽しく過ごせる見守り体制の整備や放課後の豊かな体験機会を創出するとともに、地域が支える部活動改革に取り組み、子どもたちが大人と一緒にスポーツや文化活動に楽しく挑戦できる環境の充実を図っていきます。

子ども主体の「未来の学校」 づくりの推進

全ての学校で、教育大綱に掲げる、「つくろう。ちがいを活かし合える、未来の学校。」を実現するため、子どもたちが主体的に自校の運営に携わったり、学びを自らつくり出したりする力の育成を目指します。具体的なアクションのため、子どもたちが本音を自分の言葉で語り合う対話の場を設けます。そして、子どもたち、先生たち、地域が、一緒になって未来の学校をつくりあげます。これにより、子どもたちが将来、社会参画し、自らの手で未来を切り拓く力を養います。

【目指す姿】

- 子どもが「学校生活の課題を見つけ、課題解決に向けて努力する力が身に付いた」と感じられる
- 子どもが「自分の意見やアイデアが周りの人たちに良い影響を与えている」と感じられる
- 子どもが「自分からアイデアを出すことで、授業や委員会活動、係活動をよくすることができる」と感じられる
- 子どもが「自分の行動が地域、学校、学年、学級のためになっている」と感じられる
- 子どもが「学校での活動を通じて、自分がリーダーシップを発揮できる」と感じられる

【実現するための具体的な方策】

- 子ども主体の対話による学校運営を推進するため、全校ミーティングや学校運営協議会への参画等の仕組みづくりを図ります。そして、特別活動(学級活動、児童会生徒会活動、委員会活動等)や地域・学校行事の中で、ルールメイキングや行事改善、新たなイベント等子どもたちが主体となった取組を実現します。
- 子どもが自ら学びを進める力を育むため、デジタル教材等を活用しながら学ぶ内容や方法、場所等を子ども自らが選択、調整する学びを実施します。
- 子ども主体の学校づくりに向けた教員の意識改革を図るため、令和7年度のモデル校の成果を各校での研修や実践につなげる取組や、授業公開、研修機会の充実等を通して、教員のマインドセットやスキルアップを図ります。

一人ひとりの“ちがい”が活きる 新たな学び・探究の推進

個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの視点から、客観的な根拠を踏まえた学びの変革を進め、自律した学習者として自ら考え判断して学び続ける力、多様な仲間と協働して新たな価値を創造する力、自分が思い描く未来の実現のために挑戦する力を養います。また、架け橋期の連続性を確保し、幼児期からこれらの力の基礎を培います。その実現にむけて、子どもたちが、自ら問いを立てて楽しく学べる支援者としての教員を育成します。

【目指す姿】

- 子どもが「基礎的な学力を確実に身に付ける」ことができる
- 子どもが「タブレットを使うことで楽しみながら学習を進める」ことができる
- 子どもが「課題の解決に向けて、子ども自ら考え、自分から取り組む」ことができる
- 子どもにとって「自分に合った教え方、教材、学習時間になっている」
- 子どもが「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」ことができる
- 子どもが「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」ことができる
- 子どもが「総合的な学習の時間等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを表現・発表する」ことができる

【実現するための具体的な方策】

- 新たな学びを全校で展開するため、青山・西原キャンパスで先駆的な取組を実施し、シブヤ「未来の学校」モデルを発信します。
- 探究「シブヤ未来科」の充実のため、研修やハンドブックの活用、専門教員の配置により、実施体制の強化を図るとともに、ICTも活用しながら、企業や大学等との連携を深めます。
- 基礎学力の向上や個別最適な学びを充実させるために、最新のデジタル教材や学習者用デジタル教科書を活用します。また、対話的・協働的な学びの深化にむけて、デジタル・コミュニケーションツールを活用します。その基礎として、体系的なICTスキルの習得やデジタルシティズンシップ教育、プログラミング教育を実施します。
- グローバルに多様な他者との協働を可能とするため、AI英会話アプリやALT等により英語教育の充実を図ります。
- 幼児期から子どもたちの「好き」を追究し、その後の学ぶ力の基礎を培うため、探究心をもった遊びを充実するための環境を整備するとともに、架け橋プログラムを活用した保幼小の円滑な接続を図ります。

誰でも安心・安全に挑戦できる 教育環境の整備

人はみんな違うという多様性を理解し、互いを大切にして互いのがんばりを応援し合える教育を目指します。教育活動全体を通して、子どもたちが自分の行動に責任をもち、共感、思いやりの心を大切にしながらか他者と十分に関われるような機会を重視します。また、どの子どもも安心して学んだり、自分の力を出したりできるように、安心・安全な教育環境を子どもたちと一緒につくります。

【目指す姿】

- 子どもが「学校に行くのは楽しい」と思える
- 子どもが「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と思える
- 子どもが「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と思える
- 子どもが「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と考える
- 子どもが多様性を理解し、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思える

【実現するための具体的な方策】

- 多様な特性を包摂するインクルーシブな教育の実現にむけて、交流学习や共同学習を充実させるとともに、互いの特性を理解する教育を実施します。また、個々の特性に応じた、きめ細かな教育環境の整備にむけ、多様な学びの場の整備や教員の指導力向上を図ります。
- SOGIEの相互尊重のために、多様な性のあり方の理解を促進し、誰もが自分らしく過ごせる教育環境を整備します。
- 日本語を母語としない子どもたちの学びの機会を保障するため、ICTも活用した日本語指導の充実や通訳環境の整備を行います。
- 子どもたちの生命(いのち)や健康を守るため、外部人材等を活用した健康教育や、地域・関係機関と連携した安全教育を推進します。
- いじめの未然防止・早期発見・早期対応のために、いじめに関する授業や教員研修、いじめに関するアンケート等を実施します。
- 不登校児童・生徒の学びの保障のため、居場所づくりや多様な学びの場の整備、地域・関係機関との連携を推進します。
- 校内外における問題解決のため、スクールロイヤーと連携します。

テクノロジー活用によるDXの加速化と 教員の働き方改革の推進

テクノロジーを活用したDXの推進により、教職員の業務負担を軽減し、教育の質の向上につなげます。また、教職員がチームとして組織的に、新しい取組に挑戦したり、学校で生じる様々な課題に対応したりすることを通して、教員としてのやりがい、達成感、成長を感じられる環境や制度を整えます。

【目指す姿】

- 「教員が問題を抱えている場合、組織的に問題解決に当たる」学校づくり
- 「ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)を十分に取り入れる」ことで教員の負担軽減や在校時間の縮減を図る学校づくり
- 「クラウドを活用した校務の効率化(クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等)に取り組んでいる」学校づくり
- 「教員が日々の業務に対し、やりがいや誇りを感じられる」学校づくり

【実現するための具体的な方策】

- 教職員の業務負担を軽減するため、ICTを活用して校務を効率化します。また、教育の質の向上を図るため、クラウド環境を活用した指導の充実・効率化を図ります。
- 客観的な根拠に基づいて教員の働き方改革を推進するため、出退勤管理システムを活用した勤務時間の把握や、やりがい・満足度調査を実施し、改善につなげます。
- 教員以外も含めた学校の体制を充実させるため、校務等支援人材の校内配置や部活動の地域展開、専門指導者の活用を促進します。
- 積極的な研鑽により教育の質の向上を図るため、TLD (Teacher's Learning Day)の設定による学ぶ時間の保障や、教員としてのやりがい、達成感、成長を感じられるよう教員表彰を実施します。

地域と子どもの未来を共創する学校の推進

コミュニティ・スクールとしてまちぐるみの協力を得ながら、子どもの育ちを支え、地域と共創し、探究する学校づくりを目指します。また、教育課程外でも子どもたちが健やかに成長できるよう、小学校で朝に安心して楽しく過ごせる見守り体制の整備や放課後の豊かな体験機会を創出するとともに、地域が支える部活動改革に取り組み、子どもたちが大人と一緒にスポーツや文化活動に楽しく挑戦できる環境の充実を図っていきます。

【目指す姿】

- 「教育の方針を、家庭、地域に分かりやすく伝え、理解と協力を得て、教育活動を推進する」学校づくり
- 「教育内容と教育活動に必要な人物・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせる」学校づくり
- 「地域の教育資源等を活用しながら、放課後の充実を図りスポーツや文化活動に取り組むことができる」学校づくり
- 「学校を地域コミュニティの核として、子ども、地域住民、教員が交流を活発に行う」学校づくり

【実現するための具体的な方策】

- 地域と共創する学校づくりを推進するため、コミュニティ・スクールを推進するとともに、地域学校協働本部とも連携して地域行事への参画や各地域内での小中連携を促進します。
- 探究学習やキャリア教育の充実を図るため、保護者、地域、企業・団体等の外部資源を積極的に活用します。
- 「開かれた学校」の実現にむけて、学校評価の活用や、広報活動(学校Webサイト等)の充実及び学校施設開放を推進します。
- 教育課程外でも子どもたちが健やかに成長できるよう、小学校で朝に安心して楽しく過ごせる見守り体制を導入します。また、放課後クラブの充実や部活動の地域展開、専門指導者の活用を促進します。